2025年3月期　決算説明会資料

2025年5月16日

新日本空調株式会社

新日本空調 代表取締役社長の廣島です。
本日はお忙しい中、「2025年3月期 決算説明会」にご参加いただき
誠にありがとうございます。

まずは、最初に「決算のハイライト」についてご説明し、
2025年3月期の連結業績概要、
2026年3月期の連結業績見通し、
中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗、
そして配当予想についてを、決算説明会資料に沿って、ご説明いたします。

主要業績指標で過去最高を更新

受注工事高	**1,538億円**	【前期比 +9.0%】
完成工事高	**1,376億円**	【前期比 +7.6%】
営業利益	**113億円**	【前期比 +22.9%】
経常利益	**119億円**	【前期比 +23.2%】
当期純利益	**96億円**	【前期比 +34.7%】

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

それでは、決算のハイライトからです。
2025年3月期は、受注工事高・完成工事高・各利益において、
いずれも前期を上回り、主要業績指標で過去最高を更新しました。

特に、営業利益は前期比22.9%増、経常利益は23.2%増、当期純利益においては34.7%増と、大きく伸長しました。工事の平準化や、工事量に見合う施工体制の構築、さらに業務の効率化や、採算性の向上に取り組んだ結果、昨年を大幅に上回る決算となりました。

目 次

1．2025年3月期 連結業績概要 P．3

2．2026年3月期 連結業績見通し P．13

3．中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況（2023年度～2025年度） P．17

4．配当予想 P．28

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

それではここからは、2025年3月期 連結業績概要について、
井上管理本部長よりご説明いたします。

1．2025年3月期　連結業績概要

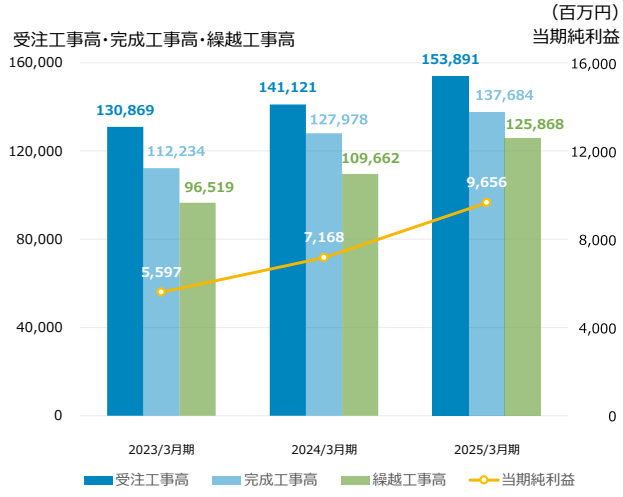
新日本空調株式会社

【連結業績サマリー】

【受注工事高】 新築の大型再開発プロジェクトやオフィスビルの大規模改修工事が活発だった保健分野に加え、データセンターや工場の設備投資が堅調に推移した産業分野が全体をけん引し、前期を上回る結果となりました。
【完成工事高】 保健分野・産業分野ともに工事が計画通りに進捗し、引き続き堅調な推移となりました。
【 利　　益 】 受注採算性の向上と、施工体制の最適化によってプロジェクト管理の効率化が図られ、収益性が向上しました。人的資本への積極的な投資により経費は増加しましたが、それを上回る収益拡大により、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも前年を上回りました。
【繰越工事高】 2期連続で1,000億円を超え、当期は1,200億円台を確保。豊富な工事残高を背景に、来期以降の業績下支えが期待される水準を維持しています。

（百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前期増減	前期比増減
受注工事高	130,869	141,121	153,891	12,769	9.0%
完成工事高	112,234	127,978	137,684	9,706	7.6%
完成工事総利益	15,676	18,699	22,002	3,303	17.7%
%	14.0%	14.6%	16.0%	1.4pt	–
営業利益	7,124	9,235	11,346	2,110	22.9%
%	6.3%	7.2%	8.2%	1.0pt	–
経常利益	7,914	9,725	11,976	2,251	23.2%
%	7.1%	7.6%	8.7%	1.1pt	–
当期純利益	5,597	7,168	9,656	2,487	34.7%
%	5.0%	5.6%	7.0%	1.4pt	–
繰越工事高	96,519	109,662	125,868	16,206	14.8%
ＲＯＥ	10.0%	11.6%	14.3%	2.7pt	–



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

管理本部長の井上です。最初に、連結業績サマリーについてご説明します。

受注工事高は1,538億円、完成工事高は1,376億円、いずれも前期比で増加となりました。繰越工事高も1,258億円となり、引き続き高水準を維持しています。当期純利益は96億円と、前期から大幅な伸びを示しております。

受注工事高は、保健分野における新築の大型再開発案件やオフィスビルの大規模改修工事の活発化、加えて産業分野では、データセンターや工場の設備投資が堅調に推移したことが全体をけん引し、前期を上回る結果となりました。

完成工事高については、保健分野・産業分野ともに工事が計画通りに進捗し、堅調に推移しております。

利益面では受注採算性の向上と施工体制の最適化により、プロジェクト管理の効率化が進み、収益性が向上しました。人的資本への積極的な投資に伴い、人件費など経費は増加しましたが、それを上回る収益拡大により、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて前年を上回りました。

繰越工事高は2期連続で1,000億円を超え、1,200億円台を確保しております。

豊富な工事残高を背景に、来期以降の業績下支えが期待される水準を維持しています。

1．2025年3月期 連結業績概要

【連結貸借対照表】

【資　産】現金預金の増加（6,642）、工事代金の回収による受取手形・完成工事未収入金等の減少（△4,738）、
投資有価証券の売却および時価評価による減少（△4,789）など。
【負　債】工事代金の支払による支払手形・工事未払金の増加（2,638）、短期借入金の返済による減少（△6,083）、
その他（納税等）（2,117）など。
【純資産】当期純利益（9,656）、配当金の支払による減少（△2,974）、その他（有価証券評価差額金の減少、為替換算調整勘定の増加）
（△2,272）など。

（百万円）

資産の部	2024年3月期	2025年3月期	増減	負債・純資産の部	2024年3月期	2025年3月期	増減
現金預金	13,629	**20,271**	6,642	支払手形・工事未払金	23,197	**25,836**	2,638
受手・完工未収入金等	65,078	**60,340**	△4,738	短期借入金	9,816	**3,733**	△6,083
その他	5,589	**9,225**	3,635	その他	15,212	**17,329**	2,117
流動資産　計	84,297	**89,836**	5,539	流動負債　計	48,226	**46,899**	△1,327
有形固定資産	2,253	**2,264**	11	固定負債　計	3,530	**1,972**	△1,557
無形固定資産	1,802	**1,752**	△50	負債　合計	51,756	**48,872**	△2,884
投資その他の資産	28,998	**24,313**	△4,685	株主資本	52,477	**58,450**	5,972
（投資有価証券）	(27,233)	**(22,443)**	(△4,789)	その他	13,117	**10,844**	△2,272
固定資産　計	33,054	**28,330**	△4,724	純資産　合計	65,594	**69,294**	3,699
資産　合計	117,351	**118,166**	814	負債・純資産　合計	117,351	**118,166**	814

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、連結貸借対照表についてご説明いたします。

資産の部ですが、流動資産は、現金預金が66億円、電子記録債権や立替金等の「その他」が36億円増加した一方で、受取手形・完成工事未収入金等が47億円減少したことにより55億円の増加、固定資産は、投資有価証券の売却および時価評価により47億円の減少、資産合計は8億円の増加の1,181億円となりました。
負債の部ですが、流動負債の支払手形・工事未払金が26億円増加した一方で、短期借入金は返済により60億円の減少となり、負債合計で28億円の減少となりました。
純資産は、当期純利益の計上により増加したものの、配当や有価証券評価差額金の減少もあり、692億円となりました。

1．2025年3月期　連結業績概要

【連結キャッシュ・フロー】

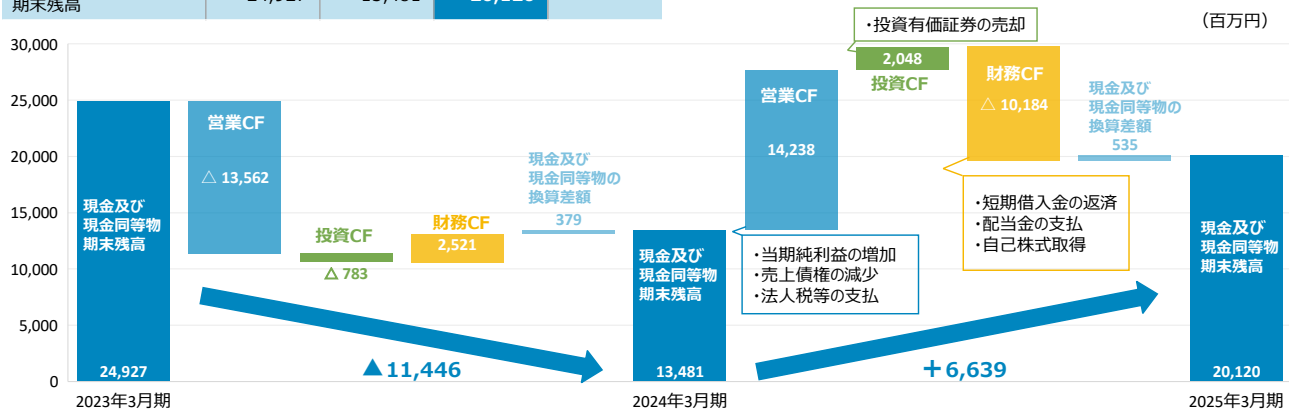
（百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	3ヶ年合計
営業活動によるCF	12,820	△13,562	**14,238**	13,496
投資活動によるCF	△1,168	△783	**2,048**	96
財務活動によるCF	△2,266	2,521	**△10,184**	△9,929
現金及び現金同等物の期末残高	24,927	13,481	**20,120**	–

【営業ＣＦ】当期純利益の増加および売上債権の減少による収入の増加、法人税等の支払等により142億3,865万円増加。

【投資ＣＦ】投資有価証券の売却による収入等により20億4,895万円増加。

【財務ＣＦ】短期借入金の返済による支出、配当金の支払、自己株式取得による支出等により △101億8,400万円減少。



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

連結キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益の増加や売上債権の減少による収入の増加、法人税の支払いなどにより142億円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却などにより20億円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済や自己株式取得等により、102億円の支出となっています。

これにより、現金および現金同等物の期末残高は、前期末残高から66億円増加し、201億円となりました。

1．2025年3月期　連結業績概要

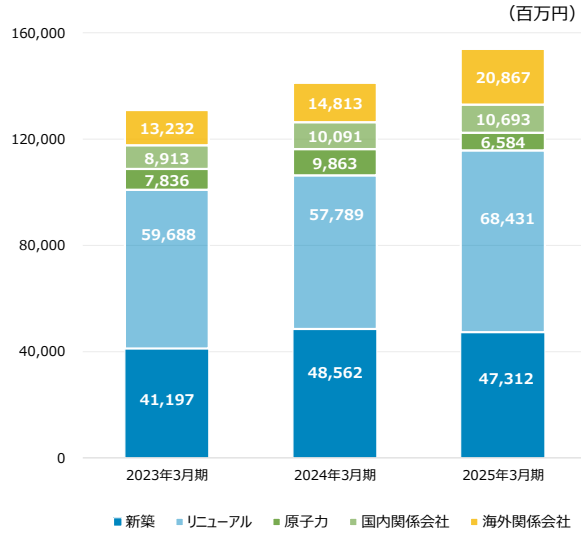
【受注工事高】

【個別国内】 新築は、保健分野・産業分野のいずれも堅調に推移し、前期と同水準の実績を確保しました。
リニューアルは、両分野における需要の高まりを受けて伸長し、前期を大きく上回る結果となりました。
原子力は、一部計画の見直し等により受注時期が次年度へ移行したため、前期比で減少しました。

【関係会社】 国内では、新築・リニューアルともに工場関連を中心とした産業分野の受注が堅調に推移し、前期を上回る水準となりました。
海外では、大規模な病院や研究施設の案件を受注したことにより、前期比で大幅な増加となりました。

（百万円）

			2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比	構成比
個別国内	一般	新 築	41,197	48,562	**47,312**	△2.6%	30.7%
		リニューアル	59,688	57,789	**68,431**	18.4%	44.5%
	原子力		7,836	9,863	**6,584**	△33.2%	4.3%
個別受注工事高			108,723	116,216	**122,329**	5.3%	79.5%
関係会社	国 内		8,913	10,091	**10,693**	5.9%	6.9%
	海 外		13,232	14,813	**20,867**	40.9%	13.6%
連結受注工事高			130,869	141,121	**153,891**	9.0%	100.0%



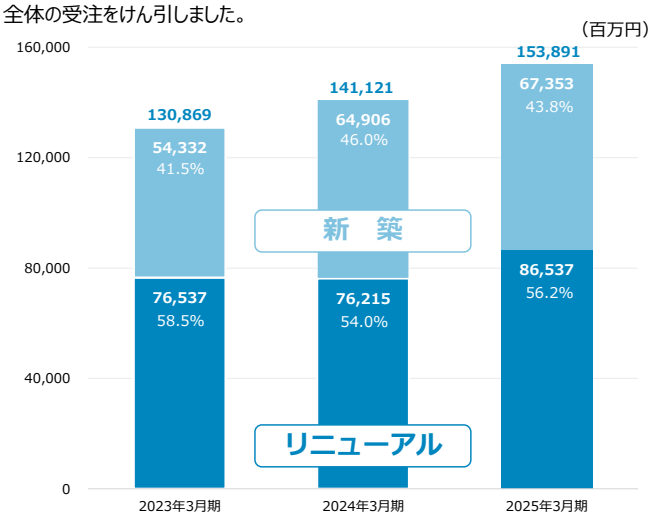
copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、受注工事高の状況です。

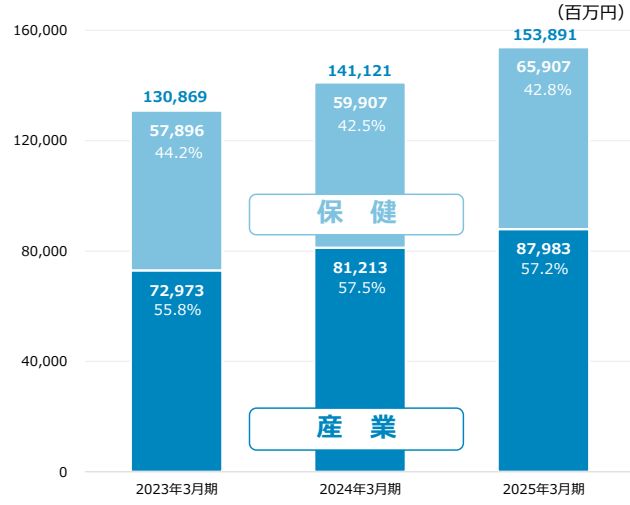
2025年3月期の受注工事高は、前期比9.0%増の1,538億円となりました。
個別において、保健分野や産業分野のいずれも堅調に推移した新築工事に加え、
需要の高まりを受けてリニューアル工事も前期から大きく増加しています。
また、原子力分野については、一部計画の見直しにより受注時期が次年度に移行した
影響で減少となっています。
関係会社では、国内において工場関連を中心とした受注が増加。
海外においては、大規模な病院・研究施設を受注したことにより、前期比で大幅に
増加しました。

【受注工事高　内訳】

【新築・リニューアル比率】
新築は、大型再開発プロジェクトやデータセンター・工場などを中心とした設備投資が堅調に推移し、安定した水準を維持しました。一方、リニューアルは、省エネルギー技術の導入が進むオフィスビル等の大規模改修工事の増加により、全体の受注をけん引しました。



【保健・産業比率】
保健分野では、大型再開発プロジェクトやオフィスビルの大規模改修工事が堅調に推移しました。一方、産業分野では、データセンターや工場などの設備投資が引き続き活発で、受注工事高は前年より上昇しました。



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

新築工事とリニューアル工事の受注比率では、新築は、大型再開発案件やデータセンター・工場などの設備投資が堅調に推移し、安定した水準を維持しました。

一方、リニューアルは、省エネルギー技術の導入が進むオフィスビル等の改修工事の増加により、全体をけん引しました。

保健分野と産業分野の受注比率では、保健分野では、大型再開発案件やオフィスビルの大規模改修工事が堅調に推移しました。

一方、産業分野では、データセンターや工場などの設備投資が引き続き活発で、受注工事高は前年より増加しました。

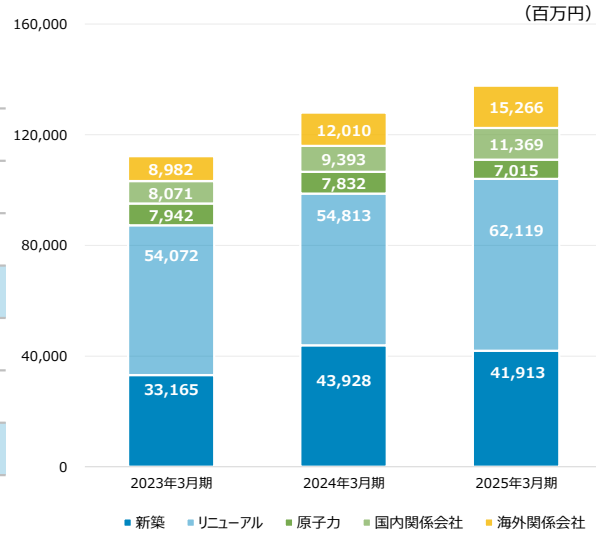
1．2025年3月期　連結業績概要

【完成工事高】

【個別国内】 新築は、保健分野・産業分野ともに工事が順調に進捗し、前期の高水準と同程度の実績となりました。
リニューアルは、両分野での工事が好調に進み、前期比で大きく増加しました。
原子力は、一部計画の見直し等により完成時期が次年度へ移行したため、前期比で減少しました。
【関係会社】 国内・海外ともに、産業分野を中心とした工事が順調に進捗し、前期を上回る水準で推移しています。

（百万円）

			2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比	構成比
個別国内	一般	新 築	33,165	43,928	**41,913**	△4.6%	30.4%
		リニューアル	54,072	54,813	**62,119**	13.3%	45.1%
	原子力		7,942	7,832	**7,015**	△10.4%	5.1%
個別完成工事高			95,179	106,574	**111,049**	4.2%	80.6%
関係会社	国 内		8,071	9,393	**11,369**	21.0%	8.3%
	海 外		8,982	12,010	**15,266**	27.1%	11.1%
連結完成工事高			112,234	127,978	**137,684**	7.6%	100.0%



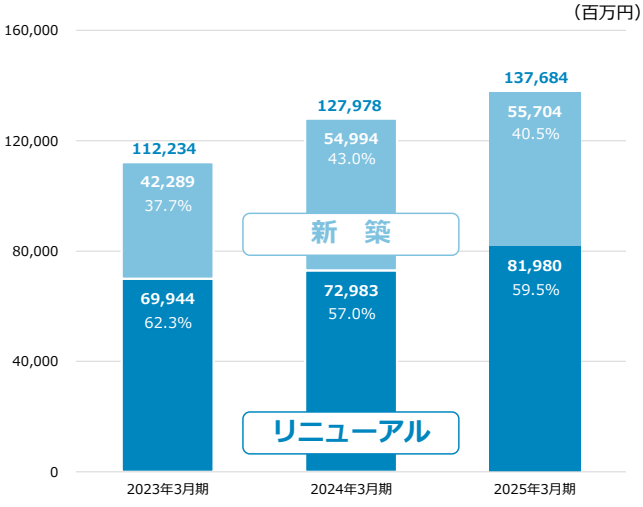
copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

次に、完成工事高の状況です。

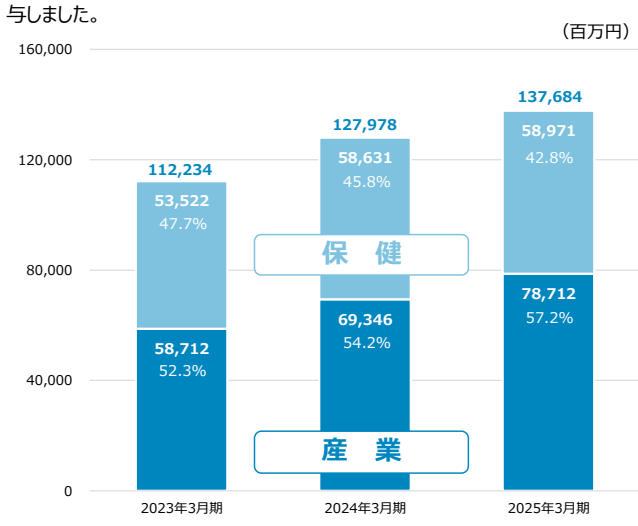
2025年3月期の完成工事高は、前期比7.6%増の1,376億円となり、順調に推移しました。
個別では、新築工事において保健分野・産業分野ともに工事が順調に進捗し、前期の高水準と同程度の実績となり、リニューアル工事も、両分野での工事が好調に進み、前期比で増加しました。
原子力分野は、一部計画の見直し等により完成時期が次年度へ移行したため減少しました。
関係会社では、国内・海外ともに、産業分野を中心とした工事が順調に進捗し、
前期を上回る水準で推移しています。

【完成工事高　内訳】

【新築・リニューアル比率】
新築は順調に工事が進捗し、安定した水準を維持しました。特にリニューアルは、オフィスビルや複合施設などの大規模改修工事が増加し、全体をけん引する結果となりました。



【保健・産業比率】
保健分野は、大型再開発プロジェクトやオフィスビル複合施設の改修工事が堅調に進捗しました。産業分野では、データセンターや工場関連の設備投資が引き続き活発で、構成比の上昇とともに完成工事高全体の伸びに大きく寄与しました。



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

新築工事とリニューアル工事の完成工事高比率では、新築は、進行中の工場案件の着実な進捗により、安定した水準を維持しました。

特に、リニューアルでは、オフィスビルなどの大規模改修工事が好調で、全体の完成工事高に貢献、全体をけん引する結果となりました。

保健分野と産業分野の完成工事高比率では、保健分野では、大型再開発案件やオフィスビル・複合施設の改修工事が堅調に進捗しました。

産業分野では、データセンターや工場関連の設備投資が引き続き活発で、構成比の上昇とともに完成工事高全体の伸びに大きく寄与しました。

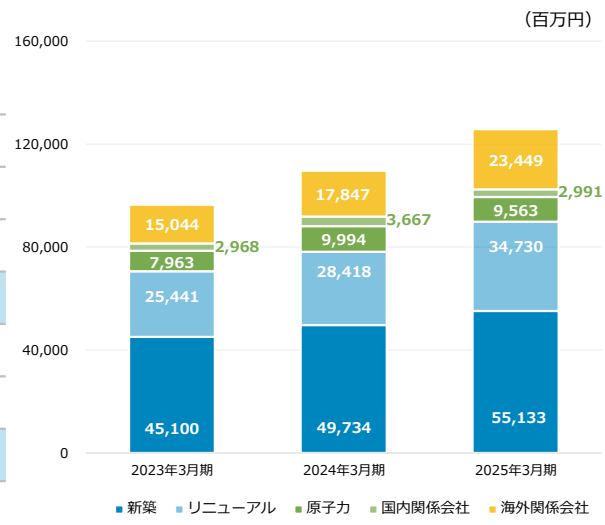
1．2025年3月期　連結業績概要

【繰越工事高】

【個別国内】 豊富な工事量を確保しており、前期比を上回る高水準で推移しています。
【関係会社】 国内は、大型案件が完工したため、前期比で減少しましたが、海外は、大型案件を受注したことにより、
関係会社全体では、前期比を上回る水準で推移しています。

（百万円）

			2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比	構成比
個別国内	一般	新 築	45,100	49,734	**55,133**	10.9%	43.8%
		リニューアル	25,441	28,418	**34,730**	22.2%	27.6%
	原子力		7,963	9,994	**9,563**	△4.3%	7.6%
個別繰越工事高			78,505	88,147	**99,427**	12.8%	79.0%
関係会社	国 内		2,968	3,667	**2,991**	△18.4%	2.4%
	海 外		15,044	17,847	**23,449**	31.4%	18.6%
連結繰越工事高			96,519	109,662	**125,868**	14.8%	100.0%



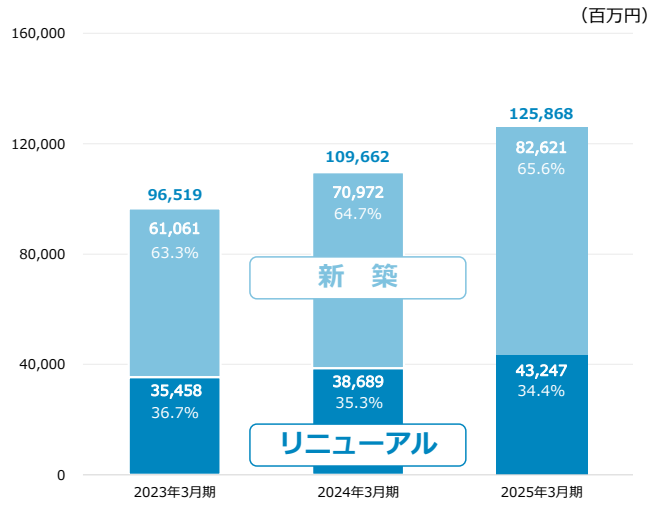
copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、繰越工事高の状況です。

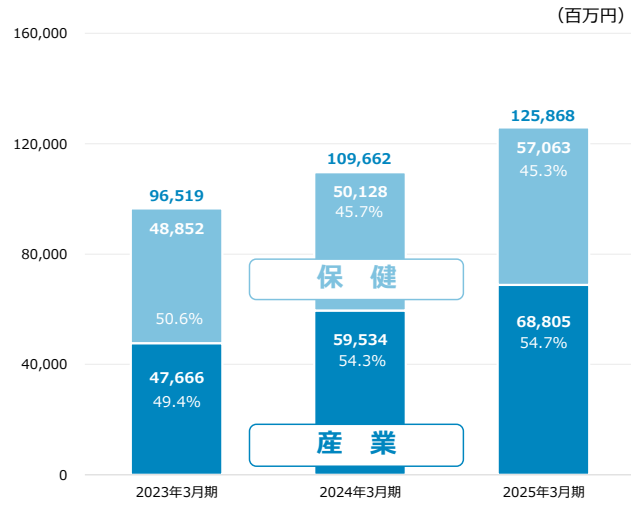
2025年3月期末の繰越工事高は、1,258億円となり、2期連続で1,000億円を超える水準を維持しています。
個別では、豊富な工事量を確保しており、前期比を上回る水準で推移しています。
関係会社では、国内で一部減少しましたが、海外での大型案件受注により、全体としては前期を上回る水準を維持しています。

【繰越工事高　内訳】

【新築・リニューアル比率】
新築は、大型再開発プロジェクトや工場案件を主軸に、リニューアルはオフィスビルなどの大規模改修工事を中心に、いずれも豊富な工事量を確保しています。



【保健・産業比率】
保健分野は、大型再開発プロジェクトやオフィスビルの改修工事を中心に、産業分野はデータセンターや工場などの設備投資が堅調に推移し、ともに安定的な工事量を確保しています。



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

繰越工事高の内訳についてご説明します。

新築工事とリニューアル工事の繰越工事高比率では、新築は、大型再開発案件や工場案件を主軸に、リニューアルはオフィスビルなどの大規模改修工事を中心に、いずれも豊富な工事量を確保しており、構成比が上昇しています。
保健分野と産業分野の繰越工事高比率では、保健分野は、大型再開発案件やオフィスビルの改修工事を中心に、産業分野はデータセンターや工場などの設備投資が堅調に推移し、ともに安定的な工事量を確保し、今後の業績を下支えする十分な水準にあると認識しています。

目 次

1．2025年3月期　連結業績概要　P．3

2．2026年3月期　連結業績見通し　P．13

3．中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況（2023年度～2025年度）　P．17

4．配当予想　P．28

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、2026年3月期 連結業績見通しについては、廣島よりご説明いたします。

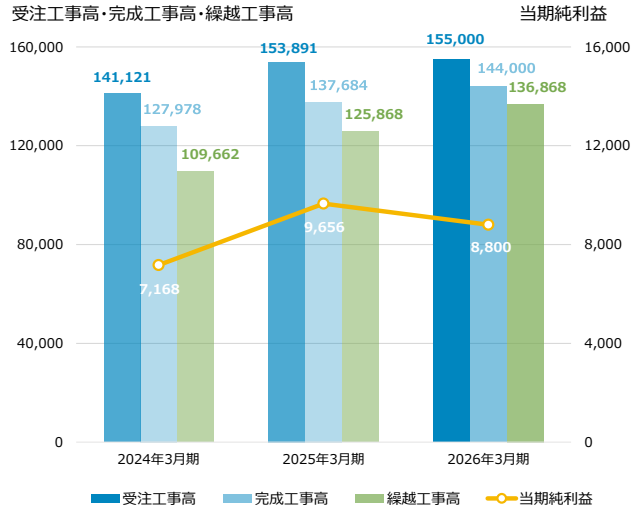
2．2026年3月期　連結業績見通し

新日本空調株式会社

【全体見通し】 豊富な繰越工事高を背景に、大都市圏の再開発やデータセンター・工場関連を含む大型案件を多数抱えており、適切な施工体制の構築を前提とした戦略的な受注・完工計画を策定しています。人的資本への投資や資材価格の上昇といったコスト増要因はあるものの、業務のデジタル化による効率化や原価低減の取り組みを進めることで、前期比での増益を見込んでいます。なお、こうした見通しを踏まえ、今期の経営数値目標は上方修正済みであり、今後は、さらなる事業規模の拡大を図っていきます。

（百万円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 見通し	前期 増減	前期 増減比
受注工事高	141,121	153,891	**155,000**	1,109	0.7%
完成工事高	127,978	137,684	**144,000**	6,316	4.6%
完成工事総利益	18,699	22,002	**23,400**	1,398	6.4%
%	14.6%	16.0%	**16.3%**	0.3pt	–
営業利益	9,235	11,346	**12,000**	654	5.8%
%	7.2%	8.2%	**8.3%**	0.1pt	–
経常利益	9,725	11,976	**12,500**	524	4.4%
%	7.6%	8.7%	**8.7%**	0.0pt	–
当期純利益	7,168	※9,656	**※8,800**	△856	△8.9%
%	5.6%	7.0%	**6.1%**	△0.9pt	–
ROE	11.6%	14.3%	**12.3%**	△2.0pt	–
繰越工事高	109,662	125,868	**136,868**	11,000	8.7%



※2025年3月期 実績は、政策保有株式の売却による特別利益、2,049百万円を計上しましたが、2026年3月期 見通しには見込んでおりません。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

当社は、大都市圏の再開発やデータセンター・工場関連など、多数の大型案件を、繰越工事として抱えております。

こうした案件に対し、適切な施工体制を構築した上で、戦略的な受注および完工計画を策定しています。

人的資本への投資や資機材価格の高騰といったコスト増加の要因はあるものの、DX推進による効率化や原価低減により、増収増益を見込んでいます。

こうした見通しを踏まえ、2026年3月期の経営数値目標についてはすでに上方修正を実施しております。

2026年3月期の連結業績計画は、次の通りです。

•受注工事高：1,550億円　•完成工事高：1,440億円

•完成工事総利益：234億円　•営業利益：120億円

•経常利益：125億円•当期純利益：88億円

当期純利益について補足いたします。2025年3月期は政策保有株式による特別利益、約20億円を計上しましたが、2026年3月期では見通しには含めておりません

ただし、売却益を除いたベースでは、前期を上回る利益率を計画しており、引き続き、収益性の高い事業運営を強化してまいります。

2．2026年3月期　連結業績見通し

新日本空調株式会社

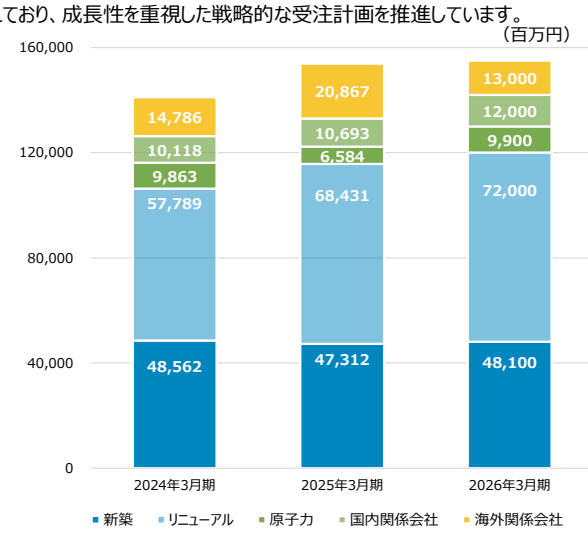
【受注工事高】

【個別国内】 新築は、大型の再開発案件や工場案件の堅調な受注が継続しており、引き続きその獲得を目指します。リニューアルは、オフィスビルをはじめとする大規模改修工事を中心に、さらなる受注工事高の確保に取り組みます。
原子力については、一部計画の見直しにより受注時期が本年度に移行したことから、大幅な増加を見込んでいます。

【関係会社】 国内では、保守メンテナンスや工場関連を中心とした受注の増加が見込まれます。一方、海外は前期に大型案件を受注した反動により、前期比では減少が予想されるものの、全体としては良好な受注環境が継続すると見込まれており、成長性を重視した戦略的な受注計画を推進しています。

（百万円）

			2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	前期比	構成比
個別国内	一般	新 築	48,562	47,312	**48,100**	1.7%	31.0%
		リニューアル	57,789	68,431	**72,000**	5.2%	46.5%
	原子力		9,863	6,584	**9,900**	50.4%	6.4%
個別受注工事高			116,216	122,329	**130,000**	6.3%	83.9%
関係会社	国 内		10,118	10,693	**12,000**	12.2%	7.7%
	海 外		14,786	20,867	**13,000**	△37.7%	8.4%
連結受注工事高			141,121	153,891	**155,000**	0.7%	100.0%



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

それでは、受注工事高の見通しについてご説明いたします。

2026年3月期の受注工事高は、連結で前期比0.7%増の1,550億円を計画しています。
個別における新築は、大型再開発案件や工場案件を中心に、引き続き堅調な受注を目指し、
前期比1.7%増の481億円を計画しています。
リニューアルは、オフィスビルなどの大規模改修工事を中心に、さらなる受注工事高の確保を図り、
前期比5.2%増の720億円を見込んでいます。
原子力については、計画の見直しにより受注が2026年3月期へ移行したことで、
前期比50.4%増の99億円を想定しています。
続いて、関係会社における国内では、保守メンテナンスや工場関連の案件を中心に、
前期比12.2%増の120億円と堅調な見通しです。
一方、海外では2024年度に大型案件を受注した反動により、前期比37.7%減の130億円
を見込んでいますが、良好な受注環境は継続しており、成長性を重視した戦略的な
受注活動を推進してまいります。

2．2026年3月期　連結業績見通し

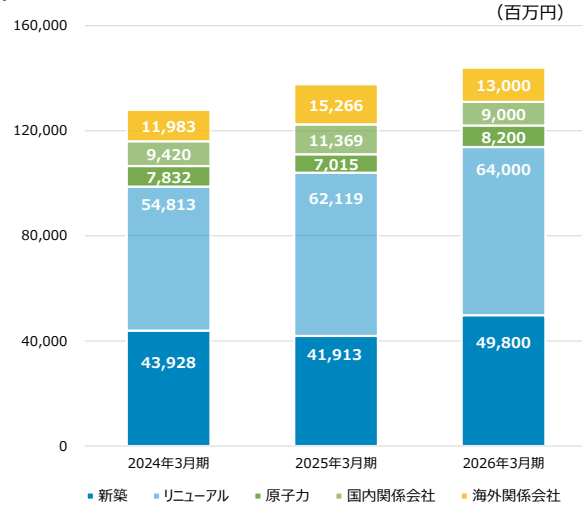
【完成工事高】

【個別国内】 新築は、進行中の大型再開発案件や工場案件の着実な進捗により、完成工事高の積み上げを図ります。リニューアルは、オフィスビルなどの大規模改修工事により、さらなる完成工事高の確保を目指します。原子力については、一部計画の見直しにより完成時期が本年度へ移行したことから、増加を見込んでいます。

【関係会社】 国内海外ともに、前期に受注した大型案件の進捗状況により、一時的に前期比での減少が想定されるものの、工程遅延等のリスクを回避しつつ、適切な施工体制を構築することで、計画通りの完成工事高の確保を図る方針です。

（百万円）

			2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	前期比	構成比
個別国内	一般	新 築	43,928	41,913	**49,800**	18.8%	34.6%
		リニューアル	54,813	62,119	**64,000**	3.0%	44.4%
	原子力		7,832	7,015	**8,200**	16.9%	5.7%
個別完成工事高			106,574	111,049	**122,000**	9.9%	84.7%
関係会社	国 内		9,420	11,369	**9,000**	△20.8%	6.3%
	海 外		11,983	15,266	**13,000**	△14.8%	9.0%
連結完成工事高			127,978	137,684	**144,000**	4.6%	100.0%



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

最後に、完成工事高の見通しについてご説明いたします。

個別における新築は、進行中の大型再開発案件や工場案件が順調に進捗しており、
前期比18.8%増の498億円を見込んでいます。
リニューアルは、オフィスビルなどの大規模改修工事などにより前期比3.0%増の640億円を
見込んでいます。
原子力については、計画の見直しにより完成時期が2026年3月期へ移行したことで、
前期比16.9%増の82億円を見込んでいます。
関係会社では、前期に受注した大型案件の進捗状況により、一時的に前期比で減少が
想定されますが、工程遅延のリスクを回避し、適切な施工体制を整えることで、
計画通りの完成工事高の確保を目指します。
以上を踏まえ、2026年3月期の連結完成工事高は、1,440億円を見込んでおります。

目 次

新日本空調株式会社

1．2025年3月期　連結業績概要　P．3

2．2026年3月期　連結業績見通し　P．13

3．中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況　P．17
（2023年度～2025年度）

4．配当予想　P．28

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

ここからは、中期経営計画SNK Vision 2030 PhaseⅡの進捗状況について
今中経営企画本部長より、ご説明いたします。

3. 中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況

長期経営方針となる10年ビジョン「SNK Vision 2030」に基づき、基本戦略およびマテリアリティを特定した中期経営計画 PhaseⅡは２年目を迎え、社会課題の解決や社会の持続可能な社会の実現に向けた各種の取り組みを着実に実行しました。

【2024年度における主な取り組み】

- 時間外労働の上限規制への対応
  - ・工事の平準化や業務の効率化を進め、適切な施工体制を構築し、上限規制の遵守率は100%を達成
- 将来の成長に向けた戦略投資
  - ・人的資本の強化、デジタル変革、成長分野への展開に向け、40億円を超える投資を実行
- カーボンニュートラルに向けた技術開発
  - ・当社保有技術「設備運用データ見える化ツール」とGHG排出量可視化クラウドサービスの連携を実現し、保有技術の深化を推進
- 株主還元の強化
  - ・株式分割による市場の流動性向上と約10億円の自己株式取得による株主への利益還元を実現
- ブランディング戦略の推進
  - ・企業認知度の向上や人材獲得を目的に、新たな広告を作成・展開し、ブランディングを強化

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

経営企画本部の今中です。中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の2年目にあたる2024年度における、主な取り組みについてご紹介いたします。

当社は、社会課題の解決や持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな施策を進めてまいりました。2024年度に実施した主な取り組みとして、まず、「時間外労働の上限規制への対応」があります。工事の平準化や業務効率化を進め、適切な施工体制を構築した結果、法定遵守率100%を達成しました。

このほかにも、将来の成長に向けた戦略的な投資、カーボンニュートラルの実現に向けた技術開発、株主還元の強化、そしてブランディング戦略の推進など、多方面で取り組みを進めています。

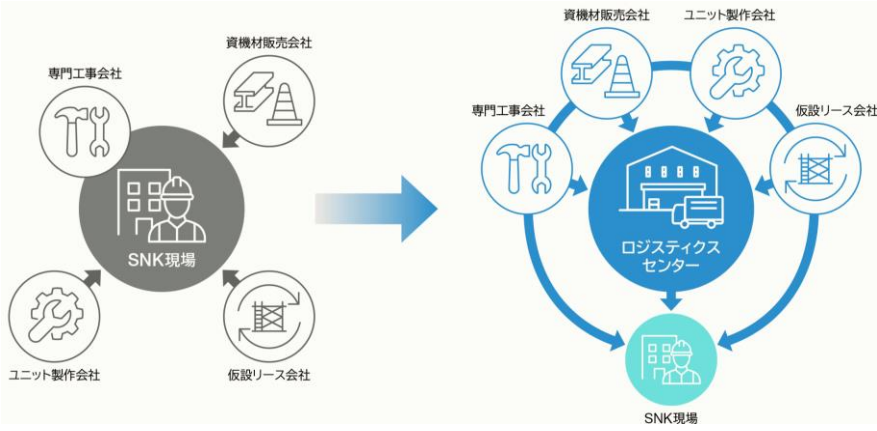
これらの取り組みと詳細については、次のスライド以降で具体的な事例を交えてご説明いたします。

【取り組み事例①】

・現場生産性の向上を目指す現場業務の効率化と省力化
・サプライチェーンの強化

➢**当社独自の物流・加工ネットワークシステムによる物流および加工場などの一括管理**

①現場工数を10～30%削減
②「SNK-SOLNet®」の全国展開に向けた取り組み





copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

それでは、重点施策や取り組み事例について、順にご紹介いたします。まずは、現場生産性の向上とサプライチェーンの強化に関する取り組みです。

2024年4月より、独自の物流・加工ネットワークシステム「SNK-SOLNet」の運用を首都圏で開始しました。

現場の状況に応じて作業の効率化・省力化を実現でき、実際に10%から30%の工数削減効果が確認されています。今後は、これまでのノウハウをもとに全国展開を進め、地域単位でのネットワーク化を推進することで、現場業務の効率化と省力化を図ってまいります。

【取り組み事例②】

・減災レジリエンス分野における技術開発
・産学官、地域連携による新技術の確立

➢千葉大学災害治療学研究所との共同研究

①コンテナ医療ユニットの被ばく対策
感染症や放射能汚染環境下での運用を検討
「コンテナ陽圧化システム」（特許出願中）



コンテナ医療ユニット（千葉大コンテナメディカルユニットCoMU®）イメージ

②患者受け入れ時の被ばく対策
被ばく汚染に応じて陰圧・陽圧の切り替えを行い、浮遊粉塵の飛散を抑制
「次世代型（気流制御型）DiverCell®」の開発



DiverCell 外観

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、減災・レジリエンス分野における技術開発の取り組みをご説明いたします。

当社は、放射線災害に対応できる安全な医療体制と空調設備の構築を目指し、千葉大学災害治療学研究所との共同研究を進めています。

具体的には、コンテナ医療ユニット内における被ばく対策に加え、患者受け入れ時の汚染状況に応じて陰圧・陽圧の切り替えを行い、浮遊粉塵の飛散を抑制する「次世代型気流制御ユニットDiverCell®」の開発に取り組んでいます。

これらの研究を通じて、災害時にも安全な医療の提供が可能な環境づくりの実現を目指しています。

【取り組み事例③】

・事業領域の拡大
・成長分野への展開

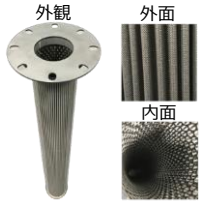
➢スタートアップとの協業やJAXAとの共同研究による宇宙産業への参画

・宇宙ビジネス共創プラットフォーム「クロスユー」に参加
・放射線対策技術を活かし、JAXAと研究開発契約締結

【有人与圧ローバーを想定したプレフィルタの性能評価】







プレフィルタ イメージ

・Frontier Innovations 1号に出資し、スタートアップとの協業間口を拡大
・高高度有人気球の開発・製造・運航を行う岩谷技研に出資、協業を開始

【気球による宇宙遊覧フライトを計画する岩谷技研に出資】





宇宙分野への取り組みを本格化
新たな成長領域の一つとして、宇宙分野への取り組みを本格化させており、スタートアップとの協業や研究開発活動を通じて、事業機会の創出と技術的知見の蓄積を進めています。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

次に成長分野への展開の一例をご紹介します。

当社は現在、宇宙分野への新たな挑戦を進めています。

その一環として、共創プラットフォーム「クロスユー」への参加や、ベンチャーファンド「Frontier Innovations 1号」への出資を通じて、スタートアップとの連携体制を強化しています。

また、当社が保有する放射線対策技術を活かし、JAXAとの研究開発契約を結び、宇宙環境における安全性向上を目指した取り組みも進めています。

さらに、高高度有人気球による宇宙遊覧の開発に取り組む岩谷技研への出資・協業も開始しており、新たな領域への挑戦を通じて、将来を見据えた事業の拡大を図ってまいります。

【取り組み事例④】

・技術革新に向けた取り組み
・新たな社会課題解決に向けた新技術開発
・地域連携等による技術提供・共同開発の推進

➢新技術開発拠点『SNK EBINA Innovation X HIVE®』の開設に向けた取り組み

2027年度上期、新技術開発拠点「SNK EBINA Innovation X HIVE®」の開設を決定しました。本拠点は、三井不動産が手掛ける「三井不動産インダストリアルパーク（MFIP 海老名 & forest）内に整備される、大規模テナント型の研究施設であり、設備業界としては初の取り組みです。複数テナント型物流施設の中に、木造構造を採用 した研究拠点を開設することで、自然資源の循環を促進し、持続可能な街づくりへの貢献を目指します。

本施設は、「知的生産性の向上を支えるウェルビーイングな空間」と「オープンイノベーションの促進によるポテンシャルの拡大」をコンセプトとして、ＡＩ制御や最新のＩＣＴ技術を取り入れ、太陽光、地中熱（保有技術）、大気、雨水などの自然エネルギーと資源を最大限に活用し、CASBEEウェルネスオフィス、WELL、BELS等の評価認証の取得を目指しています。

開設に向けては、若手社員を積極的にプロジェクトメンバーとして起用し、革新的な発想と経験を融合させた体制で、より一層の技術革新を推進していきます。

また、多目的ホールを併設し、社内研修に加えて、地域住民・学生・企業の皆様との交流の場としても活用することで、地域社会全体の活性化にも寄与していく計画です。



「MFIP海老名＆forest」完成予想イメージ　画像提供：三井不動産㈱

SNK EBINA Innovation X HIVE イメージロゴ

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

次に、技術革新に向けた取り組みについてご紹介します。

当社は、新たな社会課題への対応や、地域との連携も視野に入れながら、将来を見据えた技術開発を進めており、その中核拠点として、2027年度上期に新技術開発拠点「SNK EBINA Innovation X HIVE®」を開設することを決定いたしました。

この施設は、三井不動産が手がける「MFIP海老名 & forest」内に整備される木造の複数テナント型物流施設に入居し、設備業界では初となる、大規模テナント型の研究施設となります。こちらでは、AI制御や最新ICTを活用した実証実験の実施、太陽光や地中熱など自然エネルギーの活用を通じた環境性能の向上に取り組み、WELL、CASBEE、BELSといった環境認証の取得も目指しています。

また、多目的ホールを活用し、社内研修の場としての活用に加え、地域住民や学生との交流の場としても機能させることで、地域貢献とオープンイノベーションの推進にもつなげてまいります。

さらに、本プロジェクトには若手メンバーも積極的に参画しており、技術と人材の両面から、次世代に向けた基盤づくりを進めてまいります。

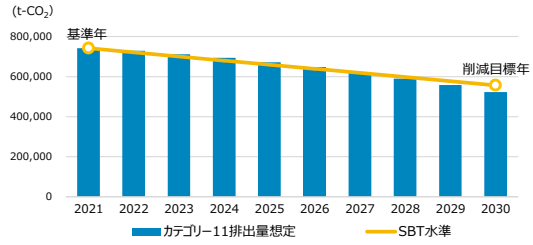
【取り組み事例⑤】

・カーボンニュートラルの取り組み

➢ＳＢＴ（Science Based Targets）認証取得へ向けた取り組み

科学的な根拠に基づいたGHG排出量削減目標を設定し、
2025年度中のSBT認証取得を目指しています。
※基準年を2021年とし、2030年までに以下の削減目標を掲げています。

【削減目標】
・Scope1＋Scope2：60.6%削減
（再生エネルギーの導入、電気自動車への切り替えなど）
・Scope3：25.0%削減
（排出量のうち、約99%を占めるカテゴリー11を削減）



➢ＴＣＦＤ（気候関連財務情報開示タスクフォース）への対応

気候変動が事業に与える影響を評価し、長期的な視点から低炭素技術の開発、エネルギー効率の向上、
再生可能エネルギーの活用拡大に取り組んでいます。

【主な取り組み】
・株式会社Sustech との協業により、脱炭素・省エネルギー分野におけるサービスの高度化や事業開発を推進
⇒設備運用データ見える化ツール「EQデータグラス®」とGHG排出量可視化クラウドサービス「CARBONIX」との連携

➢今後に向けた取り組み方針

自然資本との関係性を可視化することで、リスクの早期特定と対策を講じ、機会創出につなげます。これにより、
事業戦略の拡大とともに、企業の信頼性と競争力の向上を図ります。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについてご説明します。

当社は、2030年までに、
Scope1およびScope2を合わせて60.6%、Scope3で25%のGHG排出量削減を
目標としています。
また、パリ協定に沿った温室効果ガス削減の国際的な基準である「SBT」の認証取得を
目指しております。
すでに認証申請を完了しており、2025年度中の取得を目標に取り組みを進めております。
また、気候変動リスクと機会の開示に対応するTCFDの取り組みとして、
脱炭素・省エネルギー分野に強みを持つSustechとの協業を進めております。
この中で、当社の保有技術である設備運用データ見える化ツール「EQデータグラス」と、
GHG排出量可視化クラウドサービス「CARBONIX」との連携に向けた取り組みを進行中です。
これらの技術提携により、カーボンニュートラルの実現に向けた関連技術の高度化を図り、
脱炭素社会に貢献する技術的な価値創出を目指してまいります。
さらに今後は、自然資本の重要性を踏まえ、当社との関係性を明確にしたうえで、
リスクの早期把握と機会の創出を図り、持続的な成長につなげてまいります

【取り組み事例⑥】

・ブランディング推進に向けた取り組み
・次世代を担う人材の確保

➢ウルトラマンを起用した企業広告「カイテキヒーロー」の展開

企業ブランドの強化および認知度向上を目的に、ウルトラマンをイメージキャラクターに起用した企業広告「カイテキヒーロー」を公開しました。本広告は、ステークホルダーからの信頼獲得や、人的資本戦略の一環としての人材獲得促進も視野に入れた、ブランディング施策の一つです。
キャッチコピーである「カイテキヒーロー」には、ウルトラマンが地球を守るヒーローであるように、私たちも“空気の快適を守るヒーロー”として社会に貢献しているという想いを込めています。





copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

最後に、ブランディング戦略の推進に向けた取り組みについてご説明いたします。

当社では、その一環として、ウルトラマンを起用した企業広告「カイテキヒーロー」を展開しました。

この広告は、企業認知度の向上、ブランドイメージの強化、人材確保、そしてステークホルダーからの信頼獲得を目的としたものです。

また、一般の方々にも当社の姿勢を広く伝える重要な施策として位置づけています。

キャッチコピーである「カイテキヒーロー」には、ウルトラマンが地球を守るヒーローであるように、私たちも“空気の快適を守るヒーロー”として、社会に貢献しているという想いを込めています。

今後は、Webやイベント、採用活動なども通じて、当社の理念や価値を、社会に向けて継続的に発信してまいります。

3. 中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況

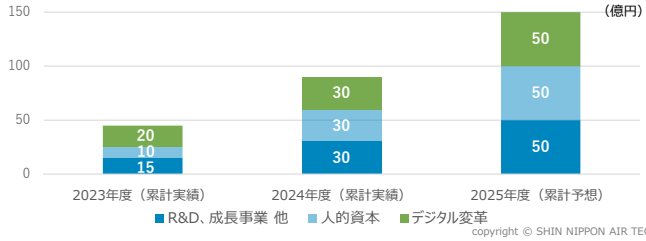
新日本空調株式会社

投資分野	«2025年3月期までの主な実施内容»	投資累計額	«2026年3月期まで計画内容»
R&D、 成長事業、 環境 その他	【研究開発】 ・保有技術の開発 【成長事業】 ・スタートアップとの連携（宇宙産業など） ・ロジスティクスセンター（SNK-SOLNet)の開設 【環境】 ・グリーンボンドやソーシャルボンドへの投資 【その他】 ・働きやすい空間創り	**約30億円**	【研究開発】 ・研究開発の推進 【成長事業】 ・スタートアップとの連携強化（宇宙産業など） ・ロジスティクスセンター（SNK-SOLNet)の全国展開 【環境】 ・ＥＳＧ投資　など 【その他】 ・働きやすい空間創り
人的資本	・賃上げや人材の増員 ・ブランディング関連 ・従業員持株会向け譲渡制限付株式 インセンティブ制度の導入	**約30億円**	・人材の獲得（新卒・キャリア）と育成 ・ブランディングの強化（新広告の展開） ・エンゲージメントの向上 ・リスキリングの強化　など
デジタル変革	・基幹システムの最適化やデジタルツールの開発 ・生成ＡＩの導入	**約30億円**	・現場デジタル化の推進 ・生成ＡＩの活用 ・デジタルインテグレーションの推進　など

中期経営計画目標

3年間（2023年度～2025年度）
150～200億円を投資

当初、期間中に計上を予定していた新技術開発拠点『SNK EBINA Innovation X HIVE®』への移転費用は、2026年度以降に変更となりました。



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

ここからは、
主な経営施策の実行状況と、その成果についてご報告いたします。

はじめに、戦略的投資の実績と今後の計画についてご説明いたします。
当社では、R&D、成長事業、環境分野をはじめ、人的資本およびデジタル変革領域への
投資について、2023年度からの3年間で累計150～200億円を計画しています。
これまでの取り組みとしては、保有技術の研究開発やスタートアップとの協業、
「SNK-SOLNet」の立ち上げなどを推進してきました。
また、グリーンボンドやソーシャルボンドを活用したESG投資にも積極的に取り組んでおります。
さらに、オフィス環境の整備や賃上げ、人材の増員・育成にも注力し、働きやすい職場環境の整備、
そして、基幹システムの最適化や、生成AIを含むデジタルツールの導入といった、
デジタル変革の強化も進めています。
こうした取り組みに対し、2023年度から累計で約90億円の投資を実行しており、
今後もこの計画に沿って、着実に取り組みを進めてまいります。

3. 中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況

株式分割および自己株式取得

当社は、株価水準および市場の流動性向上を目的として、2024年12月31日（火）を基準日※とし、株式分割を実施しました。
基準日時点の株主名簿に記載または記録された株主が所有する当社普通株式を、1株につき2株の割合で分割しています。

※詳細は、2024年11月11日公表の「株式分割および配当予想の修正ならびに株主優待制度の一部変更（拡充）に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、本株式分割に伴う資本金の額の変更はありません。今後も株式分割を通じて投資家の皆様にとって魅力的ある投資環境を提供し、株主数の増加および市場流動性の一層の向上を目指します。

株主還元の拡充および資本効率向上を目的に、上限総額10億円とする自己株式の取得を実施し、2025年２月４日に取得を完了しました。今後も株主価値の向上を重要な経営課題と位置づけ、引き続き機動的な自己株式取得に取り組んでまいります。

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続いて、株式分割および自己株式の取得についてご報告いたします。

当社は、株価水準の是正と市場の流動性向上を目的に、2024年12月31日を基準日として、
普通株式1株を2株に分割いたしました。
この株式分割に伴う資本金の額に変更はございません。
今後も、投資家の皆様にとって魅力的な投資環境を提供できるよう、
株主数の拡大と市場のさらなる活性化を図ってまいります。
また、株主還元の拡充および資本効率の向上を目的として、総額10億円を上限に
自己株式の取得を行い、2025年2月に取得を完了しております。
今後も、株主価値の向上を優先課題として位置づけ、柔軟かつ機動的な自己株式取得に
継続して取り組んでまいります

3. 中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況

政策保有株式

➢政策保有株式に関する方針

当社は良好な取引関係の維持・連携強化を図るうえにおいて、企業価値の向上を実現する観点から、必要と判断する企業の株式を保有することがあります。
株式の保有については、個別銘柄ごとに保有意義を便益性と資本コストを総合的に勘案したうえで、保有または売却の要否を判断しておりますが、
当初目標に掲げた2025年度末までに2022年度末比で20%の削減を行います。

➢政策保有株式の削減実績と見通し

2022年度末時価：21,738百万円

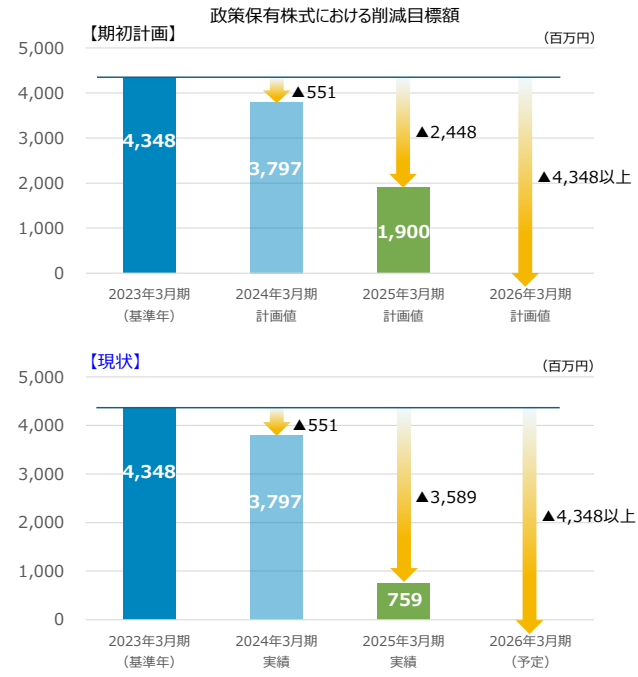
2025年度末までの目標額：17,390百万円
削減額：**▲4,348百万円**

政策保有株式の削減目標 ▲20.0%

【期初計画】
2024年度末累計削減額（予定）：**▲2,448百万円**

【現状】
2024年度末累計削減額（実績）：**▲3,589百万円**

政策保有株式の削減実績 ▲16.5%



copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

続きまして、政策保有株式の削減方針とその進捗状況についてご報告いたします。

当社では、政策保有株式について、個別銘柄ごとに便益性と資本コストを総合的に勘案し、保有または売却の是非を判断しています。
この方針に基づき、2025年度末までに、2022年度末比で20%以上の削減を目標として取り組みを進めております。
具体的には、2022年度末の政策保有株式の時価217億3,800万円に対し、削減額は43億4,800万円となります。
現時点ですでに35億8,900万円の削減を実施済みであり、計画達成に向けて着実に進捗しております。
今後も、保有意義の妥当性を見極めながら、さらなる削減に取り組んでまいります。

目　次

1．2025年3月期　連結業績概要　P．3

2．2026年3月期　連結業績見通し　P．13

3．中期経営計画「SNK Vision 2030 PhaseⅡ」の進捗状況（2023年度～2025年度）　P．17

4．配当予想　P．28

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

最後に廣島より、配当方針と2025年3月期以降の配当見通しについてご説明いたします。

4．配当予想

株主還元方針

当社グループは、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけており、安定的かつ継続的な株主還元を実現するため、株主還元に関する基本方針として、株主資本配当率（DOE）の下限を５%に設定しています。

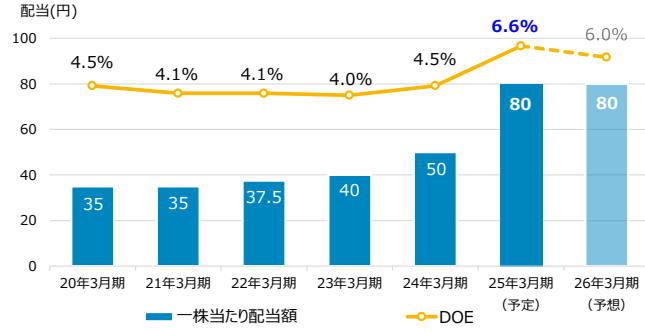
長期経営方針となる10年ビジョン「SNK Vision 2030」の期間中における成長目標を株主の皆様にお約束するため、2030年3月期までの期間は累進配当とし、年間配当の減配は行わない方針です。2025年3月期の業績が、直近に公表した業績予想を上回る見込みであること等を総合的に勘案した結果、期末配当金は、従来の1株当たり30円から20円増配し、1株当たり50円とする予定です。中間配当金30円と合わせ、年間配当金は1株当たり80円を予定しています。
また、2026年３月期は、中間配当金を40円とし、年間配当金80円を予想しています。

配当関連

(円)

		2024年3月期実績	2025年3月期予定		2026年3月期予想
			期首計画	上方修正後	
年間配当金	第2四半期	15(30)	30(60)	**30(60)**	40
	期末	35(70)	30(60)	**50(100)**	40
	合計	50(100)	60(120)	**80(160)**	80
連結配当性向		32.2%	34.3%	**37.8%**	41.2%
株主資本配当率（DOE）		4.5%	5.0%	**6.6%**	6.0%

※株式分割後の数値で表記



2025年1月1日を効力発生日として普通株式1株につき、2株の割合で株式分割をいたしました。
（ ）内は、株式分割前の換算額を記載

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

当社では、株主の皆様への安定した配当を行うため、株主資本配当率（DOE）の下限を5%に設定しています。

また、長期経営方針「SNK Vision 2030」の期間中は、「累進配当」を基本方針とし、年間配当の減配は行わないこととしています。

こうした方針のもと、2025年3月期については、期末配当金は、当初予定の1株あたり30円から20円増配し、50円とする予定です。

中間配当金30円と合わせ、年間配当金は、1株当り80円を予定しています。

2026年３月期については、中間配当金を40円とし、年間配当金80円を予想しています。

今後も、安定的かつ継続的な株主還元を実現してまいります。

免責事項

本資料にて開示されているデータや将来の業績に関する見通しは、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づくものであり、これらは様々なリスクや不確実な要因の影響を受けます。従いまして、実際の業績は、これらの見通しとは大きく異なる可能性があります。

各種データ・資料ついては細心の注意を払っておりますが、記載された情報の誤りや第三者によるデータの改ざん等本資料に関連して生じる障害・損害について、その理由の如何に関わらず当社は一切責任を負うものではありません。

お問い合わせ先

新日本空調株式会社　経営企画本部　企画・サステナビリティ推進部

TEL：03-3639-2701　メールアドレス：IR_SNK@snk.co.jp

〒103-0007　東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号　浜町センタービル

お問い合わせフォーム
QRコード

copyright © SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO.,LTD all rights reserved.

以上で、2025年3月期決算に関するご説明を終わらせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。